

渋川市小中学校PTA連絡協議会広報



新生市P連~親・子・先生、一つになっ
て各地区に「心の橋」をかけよう。



ホームページアドレス <http://shibukawa-pta.jimdo.com/>

第5号

平成24年2月発行

発行
渋川市小中学校PTA連絡協議会

印刷
(有) オンダ印刷

終わらないPTA

渋川市小中学校PTA連絡協議会
会長 根岸 一之



私は、幼稚園を
含めると9年間P
TAに携わってお
ります。時には自
分の都合で行事に
参加できなかった

り、仕事の合間を縫っての活動で苦労もあ
りました。しかし、PTA活動で得たもの
は多く、「学校の中身が見えたこと」「様々
な人に出会えたこと」「我々の活動に子ど
もたちが感謝してくれたこと」「普段経験
できないことが他の親以上にできたこと」
これらは私の人生の財産かも知れません。
PTA活動に終わりはありません。時代
の変化とともに改革し、新しいものを取り
入れなければなりません。それにはPTA
会員お一人一人の力添えが必要です。ま
た、教育に必要なのは、まずは親です。子
どもは親の背中を見て育つという言葉があ
りますが、その背中を見せるために親自身
も教育の勉強をし、実践する必要があると
思います。市P連は、それらの情報を提供
することが一つの役目です。皆さんにはこの
市P連を情報を得る場、そして情報交換の
場として活用していただければと思います。
最後に、私の目標は健全で健やかな子ど
もたちの育成に努めることです。これまで
市P連で様々な改革や新しい事業を行って
きましたが、これもひとえに各単Pの会長・
女性代表、学校関係者のご協力の賜物だと
大変感謝しております。市P連会長として
2年間という短い時間でしたが、ありがと
うございました。私自身、これからも子ど
もたちのために尽力していきたいと思いま
すので、今後とも市P連の活動にご理解と
ご協力の程よろしくお願いいたします。

定期総会

平成23年度市P連定期総会を5月14日に
アネーリ渋川で開催しました。当日は阿久
津市長、南雲市議会議員、小林教育長をは
じめ多数の「来賓の」臨席をいただきました。

議事では、平成22
年度の事業報告、決
算報告及び監査報告
がなされ、全会一致
で承認されました。
引き続き平成23年度
の役員、事業計画、
予算を上程し、全会
一致で決議され、今
年度で2期目となる
根岸会長のもと、新
年度の活動をスタ
ートさせました。



「レモンさんの
ビタミントーク」
〜今こそ愛と絆の時代〜

ラジオDJ 山本 シュウ 氏
市P連・三者連携推進協議会共催講演会



9月28日に金島ふ
れあいセンターで、
市P連と三者連携推
進協議会の共催によ
る講演会を開催しま
した。講師に「TB
Sラジオ全国こども
電話相談室・リア
ル！」のメインパ
ーソナリティーを努め
小学校のPTA会長
経験者でもある「レ
モンさん」ことラジオDJの山本シュウさ
んを迎え、「レモンさんのビタミントーク」
今こそ愛と絆の時代！〜と題して講演を
していただきました。

まず、最初に驚いたのは、声の大きさと
そのテンションの高さでした。トレード
マークであるレモンのかぶりものをかぶっ
て登場したレモンさんは、「We are シンセ
キ！」の合い言葉とともに熱いトークを繰
りひろげ、予定時間を大幅に超える講演を
していただきました。講演では、我々大人
が子どもたちとどう接するべきかを「昭和
のチップ」という言葉を使い、現代の教育
方法と保護者世代が育った昭和の教育方法

の違いなどを交えて、わかりやすくそして
熱い口調でお話しいただきました。どうや
ら我々保護者世代の多くの体の中には、「昭
和のチップ」が知らず知らずのうちに埋め
込まれているようです。
レモンさんは、今の子どもたちが置かれ
ている社会や人間
関係に対して、真
正面から向き合っ
ている勇気のある
方だと感銘を受け
ました。斬新で現
代社会に合った子
どもたちとの接し
方を、ぜひこれか
ら実践してみよう
と思いました。



【昭和のチップ】

- ①すぐ感情的になるチップ
- ②人の話を聴けないチップ
- ③絶対自分が正しいチップ
- ④極端なチップ
- ⑤自分の矛盾に気がつかないチップ
- ⑥すぐ戦うチップ
- ⑦相対評価のチップ
- ⑧すぐ悪者をつくるチップ
- ⑨男尊女卑のチップ
- ⑩すぐあきらめるチップ

みなさんにも
心当たりがありませんか？

母親委員会活動紹介

市P連母親委員長 柳岡 徹美(橋小)

母親委員会は市P連加盟27校の女性代表
で組織されており、講演会や研修会などを
開催しています。

今年度は11月15日に渋川ほっとプラザに
て高崎健康福祉大学の木村典代先生をお招
きし、「健全な心と体を
育むためのスポーツ食
育」と題して講演して
いただきました。小中
学生の心身の成長、発
達には日々の食事がい
かに大切であるかとい
うことを教えていただ
き、大変勉強になりま
した。子どもたちが勉
強や運動で力を発揮す



「小さな学校の大きな声」

『おはようございます!』大きな声の立派なあいさつを聞くことができました。それは、
渋川市で最も児童数の少ない小学校の運動会でのことです。わずか43名の児童が背筋を
伸ばし、精一杯の声を張り出していました。「楽しみにしててください」と校長先生がおっ
しゃった意味がわかった瞬間でした。

スポーツにおいても、「声を出す」ことの効果は非常に大きく、スポーツ心理学や運動生
理学から見た、科学的・精神的効果に加え、意思疎通・危険防止・空間創造といった実質
的効果までの根拠があり、その重要性が訴えられています。

また、大きな声であいさつをすることは、その人を明るい存在にし、円滑な人間関係を
築くことが可能です。あの上戸彩さんもコンテストの必勝法として「大きな声であいさつ
すること」と言っています。まあ、場合によっては大きな声はタブーとされる時もあり
ますが…

何にせよ、大きな声で立派なあいさつができる児童とご指導をくださった先生方に、フェア
プレー賞を贈りたいと思った一日でした。

追伸…渋川市P連のN会長も、大きな声でユニークなあいさつが素晴らしいと好評です。

るために、バランスのとれた食事を作るよ
う私たちも心がけたいと思います。
12月14日には研修会として、群馬県食品
安全検査センターの施設見学と体験型検査
実習を行いました。検査実習では、食品に
含まれる発色剤の検査をしたり、ジュース
や缶コーヒーなどに含まれる糖度検査など
を体験しました。普段何気なく口にしてい
るジュースの糖度を数字で見ることができ
たのが、とても興味深かったです。また、
こうした体験を共有し母親委員同士の親睦
も深められ、大変有意義な研修会となりま
した。
講演会、研修会の詳細などは母親委員会
広報紙「お母さんのひろば」にも掲載して
います。是非ご覧になってください。

平成23年度 澁川市小中学校PTA大会



澁川市小中学校PTA大会を11月5日にアネーリ澁川で開催しました。当日は、阿久津市長、南雲市議会議長、小林教育長をはじめ多数の来賓のご臨席をいただきました。

小林教育長と根岸会長から退任された前年度単P会長に感謝状が、またPTA活動に功績のあった方々へ表彰状がそれぞれ贈呈されました。また毎年、今後のPTA活動への一層の充実を図ることを目的とした単位PTAの事例発表を行っておりますが、今年度は金島小学校PTAの石川会長による「金島小学校PTA活動」について発表を行っていただきました。受賞者の方々は、次のとおりです。

受賞者一覽

感謝状 47名 (敬称略・順不同)
 和田隆・佐藤弘美(澁川南小)、堀越美幸(豊秋小)、森田政樹・大澤美香(澁川中)、諸田透(澁川北小)、野口薫・戸塚奈緒子(澁川西小)、宮本廣樹・岸五恵美(金島小)、入澤春浩(金島中)、羽鳥裕久・儘田百合子(古巻小)、相川清美・山添由香(古巻中)、内田貞徳・渡部直美(伊香保中)、佐藤正則・飯塚理恵(小野上小)、飯塚恒雄・野村千恵(小野上中)、荒木美・生方和子(上白井小)、星野裕士・飯塚由佳(中郷小)、増田紀房・井上千恵(長尾小)、吉澤清・田村美智子(子持中)、千木良幸成・狩野陽子(三原田小)、星野修二・女屋信子(刀川小)、大島寿浩・菊池美恵子(赤城南中)、中澤淳・遠藤真由美(津久田小)、兵藤博・茂木喜美子(南雲小)、田子英介・神道ちづみ(赤城北中)、今井かなみ・高橋幸子(橋小)、星野康広・大島みゆき(橋北小)、島田武・佐々木ひろみ(北橋中)

表彰状 6名 (敬称略・順不同)
 大谷千鶴子・片岡浩明(澁川中)、星野礼子・松村優子(金島中)、樋口由希(古巻小)、野口栄子(古巻中)

受賞されたみなさん、おめでとうございます。

教育懇談会

7月14日に市役所第二庁舎で、小林教育長と市P連役員、各単P会長による教育懇談会を開催しました。今回は「東日本大震災時の学校現場の対応」「学校の統廃合」「夏の電力不足に伴う学校現場での計画停電・節電の対応」などを中心に懇談が行われました。震災時の学校現場の対応では、良かった点・悪



域単位で対応していききたい。」というお話しがありました。学校の統廃合の話では、児童生徒数の減少による学校統廃合が、新たな一歩でもあるという意味や意義を理解できました。また、実際の統廃合の際には、地域における学校の存在意義に十分に配慮し、地域との連携が必要だと実感しました。計画停電・節電の対応では、電気の必要性の確認とその実行を行い、日々の生活でも節電意識を高めることが必要だと感じました。また、学校だけではなく家庭や地域でも積極的に節電に取り組むことが大切だと感じました。

この他にも多くの質疑が行われ、小林教育長の率直な意見を聞くことができ、皆さん納得のいく充実した懇談会となりました。



ソフトバレーボール大会

お天気に恵まれ、少し動く汗ばむくらいの陽気の中、毎年恒例となっている市P連主催のソフトバレーボール大会が10月23日に行われました。交代要員が何人もいるチーム、ギリギリの人数で参加しているチームと様々でしたが、昨年に比べて男性の姿が多かったようです。練習を積んで大会に臨んだチームあり、「参加することに意義がある」とぶっつけ本番で参加したチームあり：「チームごと」に熱の入れ方は違うものの、ゲームが進んで行くにつれて歓声が大きくなり、盛り上がり上がっていききました。そして、リーグ戦を勝ち抜き、見事優勝を決めたのは澁川北小PTAでした。昨年に続く2連覇です。おめでとうございます。幸い大きなケガもなく、楽しい雰囲気の中で大会を終えることができました。来年も多くの皆

さん笑顔が見られることを期待しています。

ソフトバレーボール大会 競技成績

優勝	澁川北小PTA
準優勝	澁川南小PTA
第3位	古巻小PTA



見事2連覇を達成した澁川北小PTAのみなさんです。

日本PTA全国研究大会ひろしま大会 報告

8月27・28日 広島県立総合体育館他

「さんさい！みんなさい！やりんさい！子どもたちの笑顔のためにがんばろう日本！平和な未来へ」のスローガンのもと、全国から約8,000人のPTAが一堂に会しました。初日は、「平和教育」をテーマとした分科会に参加し、2日目の全体会では、「五体不満足」の著者・乙武洋匡氏の講演を聴くことができました。

私は、特に初日の分科会での仲島正教氏の講演が印象に残りました。元小学校の先生で、現在は先生達を教える先生として講演会等で活躍されている講師でした。講演の中で「子どもたちは学校ではいじめ、家庭では虐待などにより平和ではない状況がある。また被害者になる子どもだけでなく、犯罪、いじめ、家庭内暴力の加害者・傍観者の側に立つ子どもが増加している。これらを解決するのは親の愛情、周りの人の愛情が一番」とおっしゃっていました。また「10秒の愛」が重要で、10秒間だけでいいから子どもに全力で愛情を注ぐ、何か物事をしているから10秒立ち止まって子どもに耳を傾ける。こんな簡単な事が今の人にはできない。」「ともおっしゃっていました。日々忙しい毎日を送っている私たちは、子どもに対して叱った、強要したりする部分が多く、愛情を確かめる時間が少ないのではないのでしょうか？

今回、全体をおして「PTAとしてできること」「PTAでしかできないこと」の意味がわかったような気がする貴重な2日間となりました。全国大会で得たことを、今後の活動に役立てたいと思っております。

日本PTA関東ブロック研究大会 長野大会 報告

10月21・22日 長野市ホクト文化ホール他

市P連副会長 儘田 清(古巻小)
 10月21・22日の2日間、第43回日本PTA関東

今年度、新たに市P連ホームページを開設しました。市P連主催事業を中心に情報を掲載しています。是非、ご利用ください。
<http://shibukawa-pta.jimdo.com/>
 澁川市PTA と検索してください。

編集後記

「かけはし」も回を重ねること5回目の発行を迎えました。「かけはし」を読んだ会員が「あっこんなイベントやってたんだ」と市P連活動の様子を知っていただきた。これからのPTA活動の一助になってくれたら編集に携わる一員としてありがたいなあと思っています。ところで、今年度市P連は「かけはし」以外の情報発信ツールとしてホームページを立ち上げました。様々な市P連活動や有益な情報をタイムリーにお届けします。「かけはし」同様ご愛顧をお願いします。

- ～ 広報委員 ～
- | | |
|--------------|--------------|
| 谷津 礼示 (津久田小) | 小野 和則 (小野上小) |
| 佐藤 光芳 (澁川南小) | 浩 浩 (澁川北小) |
| 石川 久洋 (金島小) | 忠 忠 (上白井小) |
| 石坂 浩一 (子持中) | 義 義 (赤城南中) |
| 飯田 裕子 (橋小) | |

「結論」今後のPTAのキーワードは、「よってたかかって子どもを育て、まちな一緒に元気になるう」です！

私が参加した第8分科会『地域連携』の研究発表では『繋がる・支える・共に生きる』六浦中学校を支える地域、地域と繋がる子どもたち』と『トイレの神様に出会った日』心豊かな人間形成を目指して』という2事例の報告と、大学教授による『学校と地域連携』よってたかかって育てよう』という講演がありました。

内容は「地域の行事に積極的に交流・参加することで、地域とは何か、社会とは何かを考え体験する貴重な機会となる」、「自分の親にも怒られたことのない(…これはこれで問題だと思いませんか?) 子どもたちが、地域と交流することで、大人たちに叱咤激励されながら地域に受け入れられる」、「家庭における教育力の低下が叫ばれる中で、地域の教育力が子どもや若者を育ててくれる」等であり、要約すると「子ども(若者)は地域で育つ」というものでした。一方で「子どもたちが地域に入ることで、行事を担う欠かせない一員として期待されるようになってきた」、「子どもや若者がいなければまちは成り立っていかない」、「子どもや若者のエネルギーがまちを元気にする」という点では、「子ども(若者)が地域を育む」ということも大切なポイントではないかということでした。

